

社会主義中国における「民族」 概念の政治性と国家政策 四川・雲南瀘沽湖地域の納日人集団を例に

ハス額尔敦

はじめに

「民族」という言葉は中国国籍を持つ人々にとっては極めて重要な存在であり、政治、経済、文化、教育など様々な領域においてその存在の役割を果たしている。さらに、公民の身分証明書に民族帰属が明記されていることから、「民族」が個人と国家との間における重要な「枠組」でもあることは明瞭である。

しかし、中国において「民族」がこのような重要な役割を果たす存在として現れたのは実は 20 世紀半ば以降のことであった。1949 年の中華人民共和国成立の後、政府の主導により全国範囲で行われた「民族識別作業」を経て、全ての公民が 56 の民族に分類され、それにより「民族」が初めて国家と個人の間の重要な「枠組」として登場したのである。したがって、中国における「民族識別作業」を始めとする「民族」概念は、常に鮮明な政治的な特徴を有するものである。

本稿では中国における「民族」概念の政治性及びその影響を 1950 年代の「民族識別」作業を中心に分析したい。1950 年代の「民族識別作業」は理論的には、「民族間の平等」を達成するという意志に基づいた作業であった。しかし、ある種の政策の実施を目的に行われたという出発の時点で「民族識別作業」はすでに政治的色彩を色濃く帯びており、最初から民族を集団の内的論理にしたがって区別するのではなく、政治的な関心に沿って行われる可能性を孕んでいた。またその背景に、つまり全ての民族を「識別」しなければならなかった背後には、新政権の「進んだ民族と遅れた民族」に関する考え方があったのである。このような性格を持つ「民族識別作業」が「民族」を一体どのように捉えたのか。それと同時に「民族識別作業」の出発点となる「進んだ民族と遅れた民族」の思想が実際にどのような影響をもたらしたのか。本稿では四川・雲南両省瀘沽湖（以下カタカナで表記する）地域に居住する納日（以下カタカナで表記

する)人の50年代の「民族識別」及び70年代の民衆運動を例に、以上の問題について分析を行う。

1. ルグフ地域のナズ人社会

中国四川省、雲南省の境界地にルグフという湖があり、その沿岸を一回りする形でナズ人と自称する集団が両省にまたがり居住している。ナズ人はルグフ沿岸の16の自然村に分散して両省にまたがって生活しており、四川境内に11、雲南境内に5つの自然村がある。この16の自然村におけるナズ人の人口は約14000人余りであり、四川側に約6000人、雲南側には約8000人が居住している。その他、塩源県の大坡郷や塩辺、木里県にも「ナズ」を自称する4000余人が生活しており、両省のナズ人の全人口は約4万人であると言われている。

ルグフ地域のナズ人集団はその「母系制家族」と「通い婚」という独特の伝統習慣により世間に注目されてきた。中華人民共和国成立後の60年代から、民族学者や政府部門の調査団体が



「母系制」が今観光において脚光を浴びている。2007年8月撮影

大勢ルグフ地域を訪れ、「母系制家族」や「通い婚」に関する大量の調査記録を残している¹⁾。90年代に入り、ルグフ・ナズ人地域で観光開発が進められ、大きな経済成長を遂げたが、その背後にもナズ人集団の「母系制家族」と「通い婚」という伝統文化が大きく作用していた。つまり、「高原の名珠」と呼ばれたルグフ湖の景色に加え、ナズ人集団の「母系制家族」と「通い婚」の民族伝統文化が観光の目玉になったのである。観光開発が始まった時点から、観光の目的は主に「ルグフの美しい景観を觀賞すること」及び「漢族とは違う習慣をもつ『モソ人』に出会う

こと」²⁾であると宣伝され、観光の焦点はナズ人集団の民族文化にあてられたのである。

しかし、観光開発に大きな役割を果たすナズ人の民族事情は実は複雑である。ルグフ地域のナズ人は元々同じ一つの集団であるが、政府によって発行された身分証明書には、四川省ナズ人が「モンゴル族」として、そして雲南省ナズ人

は「納西（以下カタカナで表記する）族摩梭（以下カタカナで表記する）人」として登録されている。このような状況を生み出す原因となったのが、1950年代の「民族識別作業」であった。また近年、雲南省内のナズ人をはじめ、ルグフ地域ナズ人は身分証明書における「ナシ族モソ人」、及び「モンゴル族」という記載を放棄し、新しい族称の「モソ族」を獲得するため様々な運動を起こしている。以下、中国1950年代の「民族識別」政策の時代背景やそれによって生まれた政治的な性格・特徴を見ていきたい。また、「民族識別作業」の中でナズ人集団が二つの「民族」に分断された具体的な経緯と、1970年代のナズ人民衆運動の検討を通じて「民族識別作業」における「民族」概念の政治的な性格とその背後の理念が、「識別」された「民族」に実際にもたらした影響を検証する。

2. ルグフ地域ナズ人集団における「民族識別」

中国には漢民族と55の少数民族が居住している。しかし、この56の民族の内、44の民族は中華人民共和国成立後、国家によって「識別」された民族である。その「識別」とはつまり中華人民共和国成立後1954年から1979年にかけて行われた「民族識別作業」の過程を言う。

2.1. 「民族識別」の時代背景

中国共産党政府は1954年から全国規模で「民族識別作業」を行った。その背景を次の二つの面から分析したい。

まずは、中国共産党のマルクス主義政党的性格及び国際環境の影響が挙げられる。マルクス主義は「各民族の絶対的平等、無条件に一切の少数民族の権利の保護を要求する」³ことを挙げており、中国共産党が「民族平等」政策を実施したことはその必然的成果であるといえる。また国際環境、特に社会主義陣営のリーダー的存在である旧ソ連の「民族平等」や「民族自決権」政策の影響は決定的であったといえる。

二つ目の背景としては、国内環境の影響、即ち新政権がこの前の中華民族時代の政策との差異をアピールし、新政権の正当性を強調する目的があったことが考えられる。新政権を勝ち取った中国共産党は旧政権の「少数民族を圧迫し、同化主義や大漢民族主義（少数民族を差別すること）を行っていた封建社会や国民党と異なり」⁴、「民族平等」政策を実施することによって、少数民族の新政権への信頼を勝ち取ることに力を入れたのである。

「民族平等」を実現するため、中央政府は各少数民族に「民族区域自治」政策を含む様々な政治的権利や優遇的措置を与えることを考慮した。しかし、当時は政策実施の対象となる少数民族が一体どれくらいあるかについては明確ではなかった。例えば、1953年の全国人口調査に備え、中央政府調査団が「名はその持ち主に従う」という原則に基づき民族調査を行った結果、全国において400余りの「民族」、雲南省のみで「260余りの『民族』の名前」が報告されたという⁵。しかし、報告された族称を全て「民族」と認め、政策の実施に移るわけには行かず、中央政府はまず「民族識別作業」を行うことが目下の任務であると認識するようになる。そして1954年に、「民族識別作業」は西南地域から始まったのである⁶。

2.2. ルグフ・ナズ人地域における「民族識別」

50年代における中国中央政府の「民族識別作業」は三つの段階に分けて行われた⁷。まず、少数民族地域に居住する集団が「少数民族」であるか「漢族」であるかを識別し、それが少数民族であれば単一の民族かそれともある民族の所属集団かを識別する、そして最後にその単一の少数民族がどういう民族であるかを確定するという方法で行われた。しかし、ルグフ地域のナズ人集団は元々一つの少数民族集団であるにもかかわらず、二つの行政省に所属していたがた

めに「民族識別」において両省のナズ人は全く異なる「識別」結果となったのである。

まず、四川省のルグフ地域におけるナズ人に対する「識別」作業を見てみる。塩源县は1950年3月に中国共産党の人民解放軍により「解放」され、翌年の10月30日にナズ人が集中する地域で左所自治区政府が成立し、元左所のナズ人土司のラ宝臣氏が初の区長を勤めるようになる⁸。1952年に県政府が翌年の全国第一回人口調査に備え、また新しい民族政策を実施するため様々な会議やイベントを開催し、公民の民族出自の登録な



故ラ宝臣氏の写真 写真の上に飾られているのはチンギスハーンの像である。ラ品初の家で筆者撮影 2005年9月

どを積極的に行った。全国第一回人口調査に備えた公民の民族出自登録は「名はその持ち主に従う」という原則で行われた。しかし、かつて「民族」という存在を意識もしていなかった当地のナズ人民衆は、どういう名称を以って登録するか戸惑ったと言う。ルグフ地域ナズ人はかつて「呂喜」「モソ」「モシェ」という他称、「ナズ」「ナホン」「ナ」という自称など数多くの名称を持っていたからである。他方、民衆に比べ統治者であるナズ人土司たちは明確な民族出自の意識を持っていた。その一人である左所区のラ宝臣（元左所土司）は自らの出自を「蒙古韃子」¹⁰と登録し、1952年の4月に開かれた塩源县少数民族代表大会に、「蒙古韃子」の代表として参加した。代々に世襲するラ土司の臣民であった左所区のナズ人民衆は、結局ラ宝臣と同じく「蒙古韃子」出自として登録し始める。そして、1953年の全国第一回人口調査において四川ルグフ地域のナズ人は皆「蒙古韃子」で登録した。

1954年から、中央政府の民族識別調査団が二回にわたって四川省を含む西南地域を訪れているが、四川側ナズ人地域では調査団による「識別」が行われず、自ら選択し登録した「モンゴル族」出自が定着したようである。それは、ナズ人が登録した「蒙古韃子」出自は、当時「識別作業」を経ずに公認されたモンゴル族であると見なされたためではないかと思われる¹¹。

1957年に内モンゴル自治区成立10周年慶祝大会がフフホトで開かれ、ラ宝



旧永寧土司府総官の阿少雲 身なりは
モンゴル服装である 洛克 撮影

臣氏が四川省モンゴル族代表として招待された¹²。1982年の全国第三回人口調査において再び確認され、モンゴル族出自が定着して今に至っている。

他方、雲南省ナズ人の「民族識別」における経歴は四川側ナズ人とやや異なるものであった。1950年に永寧地域は中国人民解放軍に平和的手段によって「解放」された。同年永寧を中心に寧浪県民族民主連合政府が成立し、ナズ人の旧永寧土司府総官の阿少雲氏が副県長に任命される。永寧土司と総官は皆「阿」とう姓を持ってお

り、先祖代々に左所区のラ土司と同じくモンゴル人であるという意識を持っていた³。しかし雲南省永寧地域のナズ人の民族出自は結果的に四川側ナズ人と異なるものとなる。雲南省は全国においても少数民族の最も集中する地域であり、1953年の全国人口調査に備え「名はその持ち主に従う」という原則で登録を実施した際、一つの省だけで260あまりの「民族」の名が報告されたという。これら全ての260個の民族集団をそのまま「民族」に登録することわけには行かず、「民族識別作業」が必要となった。1953年末に中央政府の「民族識別」調査団が雲南入りし、本格的「民族識別」が始まる。このように、雲南側ナズ人集団が四川側と異なり中央調査団の「民族識別」を受けなければならない立場に置かれ、その民族出自が公的「識別」で確定されることとなった。

しかし、当時の「民族識別調査団」が永寧地域に入り、永寧ナズ人を対象に「識別」を行ったという文献資料或いは証言は見当たらない。即ち、調査団は直接現地入りせず、麗江市において文献資料、或いは人口統計資料の類を利用し当地域の住民を「識別」した可能性が高い。その結果永寧地域ナズ人は麗江ナシ族と共に「ナシ族」に「識別」されたと考えられる⁴。文献資料によると調査団は「四つの共同」基準により、まず当地の住民が「少数民族」であるかそれとも「漢族」であるかの「識別」を受けた。その結果、当地域の住民は「モソ」という古称を持つ「少数民族」であると「識別」された。しかし、その後、麗江地区に多数を占めるナシ族住民とルグフ地域のナズ人がより詳しい「識別」調査を受けることはなかった。ナズ人とナシ族は「解放」前に当地域の他の民族から共に「モソ」「モシェ」と呼ばれていたことがこのような結果を招く要因となったと考えられる。永寧府ナズ人土司は自らの出自をモンゴル人であると考えていたにもかかわらず、雲南側ナズ人は皆「ナシ族」として「識別」される結果となったのである。

以上、ルグフ地域ナズ人集団における「民族識別」のプロセスを見てきた。両省のナズ人は元々同じ一つの集団であり、両地域の支配者層である土司らはある程度はっきりした「モンゴル」という民族・出自の意識を持っていた。それにもかかわらず、両省のナズ人が「民族識別作業」において全く異なる二つの民族出自に「識別」される結果となったのはなぜだろうか。

ナズ人集団の「識別」問題に関して、従来の研究論文や政府の公文書などではナズ人集団が二つの省に分断されながら居住していることや中央政府による同作業における人為的、政策的過ちなどについて取り上げられてきた⁵。しかし、

ナズ人集団の「識別」問題を当時の時代背景や「民族識別作業」の基盤となる思想と結び付けて考えた場合、それは指摘されてきたような人為的、政策的ミスという偶発的なものではなかったといえよう。なぜなら、「民族識別作業」は「民族平等」の実現を目的としたものの、その基盤となる思想により「進んだ民族」と「遅れた民族」を区分する作業となったからである。そのため、「民族識別作業」において「民族」は結局その集団の内的な論理を無視し、同じ一つの集団が二つの「民族」に「識別」されるという事態を引き起こしたのである。

3. 「民族識別」という思想及びその影響

3.1. 「民族識別」という思想

「民族識別作業」はそもそも「民族間の平等」の実現を目指して行われた初段階の作業であった。前述のように、中国共産党の「民族間の平等」政策はまず国際社会の影響、特に社会主義陣営のリーダーたる存在である旧ソ連の民族政策の影響は決定的であった。マルクス主義の性格を持つ政党として中国共産党は「全ての民族間の平等」の達成を目指した。また一方で、各時代における漢民族の少数民族に対する圧迫や差別を意識しており¹⁶、それに対する反省や新政権の正当性をアピールする必要から「民族間の平等」政策を全面的に打ち出したのである。

しかし、この「民族間の平等」は現段階でただちに実現できるものではなく、将来の達成目標であると捉えられた。なぜなら、現段階の民族間の発展レベルに差があり、つまり「進んだ民族」と「遅れた民族」が存在しており、「遅れた民族」に対する長期間にわたる「優遇政策」の実施こそ「平等」に結びつくものであると考えたからである。その「民族間の発展の差」の根拠は、レーニン・スターリン主義の時代に公式された唯物史観による民族発展段階論であった。例えば、1950年代の「民族識別作業」における少数民族について「各少数民族がいくつかの発展段階に属されており、具体的に見た場合、ある少数民族は未だに原始社会（例えばオルチェン族）や奴隷社会（例えばイ族）の発展段階にあり、ある少数民族は封建社会（モンゴル族、チベット族）の発展段階にある。数少ない少数民族（例えば朝鮮族）が漢族と同じく近世資本主義社会に入っているが、全体的に見ればその発展は立ち後れている」¹⁷というような区分をしている。つまり、政府の1950年代における「民族識別作業」はつまりその「遅れた民族」を「見つけ出す」作業でもあったのである。

「民族識別」における「進んだ民族」と「遅れた」民族の思想、更に少数民族を発展段階に区分する考え方により、少数民族一般に対する差別的な見方が固定された。以下、その例としてナズ人集団の1980年代に起きた民衆運動を見ていく。

3.2. 「立ち遅れた民族の像」とナズ人の反対民衆運動

中華人民共和国の成立後、全国の少数民族地域において数回にわたる大規模な民族学的調査が行われた。1954年の「民族識別調査」や1956年から行われた少数民族歴史社会調査（または「五項目（民族自称、歴史、言語、慣習、民族意識）調査」ともいう）などの中央政府の調査をはじめ、省レベルや中国社会科学院及び個人研究者による調査が次々と行われた。その中で、ルグフ地域ナズ人集団の周囲の民族のものとは異なる生活習慣や婚姻制度に興味を抱いて、訪れる調査団や学者も少なくなかった。その結果、ナズ人集団の歴史、社会、慣習、婚姻、家庭の様子が記録された、新「民族誌」とも呼ばれる民族学的調査記録が大量に蓄積された。

50年代から70年代末にかけて書かれたこれらの調査記録は、これまでの民族学的著作と異なってマルクス主義的イデオロギーに基づいてナズ人集団の「母系制」や「通い婚」習慣を「立ち後れ」の証拠として捉えているという点において特徴的である。それが結果的にナズ人民衆の抗議運動を招くという事態にまで発展したのである。以下、ナズ人集団の民衆運動について検討し、その差別の固定化の背景に迫って行きたい。

1960年代のルグフ地域ナズ人に関する民族学的調査においては、ナズ人の「母系制家族」や「通い婚」が焦点となったが、「永寧ナシ族群婚家庭の残余」などの題名からも伺われるように、ナズ人の「母系制家族」と「通い婚」は明らかに否定的に扱われている。

永寧ナズ人地域を最初に訪れた学者である宋恩常氏は『寧浪県永寧区ナシ族社会及び家庭形態調査』の中で「永寧ナシ族母系制家庭やその婚姻形態は、(中略)封建社会にも適応し、長期に渡って保存された」と述べている¹⁸。また、1963年に永寧入りした嚴汝嫻・劉尧漢氏は『永寧ナシ族社会と母系制の調査』において「1956年に(中略)全国規模で行われた『立ち後れを救助する』運動つまり少数民族の中に保存されている原始的、奴隷制的、封建農奴制的社会歴史資料を招集する運動が実り多い成果を挙げた。宋恩常をはじめとする学者がル

グフ地区モソ人の母系制遺留に関する調査は其の一つである」¹⁹と記述している。その他、劇作家の譚碧波氏は『ルグフの夜』という作品の中で「大昔の人々は自分の母を知り、父を知らなかった時代がある。(中略)20世紀の今日で、ルグフ湖畔で大昔の神秘的な伝説、人類歴史の幼年を発見するとは思ってもなかった」(1992、57頁)と記述している²⁰。譚碧波を除く他の研究者はいずれも中央政府の調査団のメンバーであり、彼らの調査記録が国家民族事務委員会により中国少数民族歴史社会調査の権威あるシリーズである『民族問題の五項目文庫』として出版されたことから、その影響が甚大であることが分かる。

ナズ人集団の「母系制家族」や「通い婚」に対する上述したような見方は調査記録の他、政府の公文書にも見られる。例えば、1979年6月寧浪県委員会より雲南省民族事務委員会宛に出した「永寧ナシ族(モソ人)の青年たちに家庭作りのための経済支援を実施し、永寧地区ナシ族の母系制家庭を次第に解決することに関する申請報告」に、「解放前は、ここは未だに封建領主制社会であり、モソ族は未だに母系制家庭を保存していた。(中略)解放後は、文化と社会の発展に伴い、また外来の幹部や他の民族の影響により、この立ち後れた家庭形態や婚姻関係に次第に変化が見られ、(中略)他の民族をまねて、一夫一妻の固定した家庭を作り始めた」と述べられている。

更に1980年代に入ると新聞や雑誌にナズ人関連の記事が続々と登場したが、その内容は相変わらずナズ人の民族出自、生活慣習や婚姻形態に関するものであった。記録調査と同様に、マスコミもナズ人集団の「母系制家庭」や「通い婚」を大きく取り上げ、「立ち後れた」民族集団の「発展の様子」が次々と報道された。それが結果的に、四川省塩源县地域におけるナズ人集団の大衆抗議運動を引き起こすこととなったのである。

運動の矛先は主に四川側ナズ人の民族出自の歪曲した報道に向けられたが、「母系制」、「通い婚」の習慣を理由にナズ人集団を「立ち後れた」民族と報道したことにも強く反発した。ナズ人の「母系制」や「通い婚」に関する新聞・雑誌による主な報道としては、1981年に『八時間以外』(天津人民出版社)に掲載された「川滇边境モソ人社会の見聞 ルグフ湖畔の女性王国」や、同年、『銀幕内外』の「ルグフ湖畔の母系制」が挙げられ、また同様の内容の文章や写真が広州市の『旅伴』、北京の『瞭望』なども掲載された²¹。

掲載されたナズ人の「母系制」や「通い婚」の内容に関して、マスコミ・メディア、政府機関宛に出した²²「四川省凉山彝族自治州塩源县モンゴル族民衆の

要望」の中において次のように述べられている。

「確かに左所区沿海、前所二社の極少ない家庭に「通い婚」 母系制ではなく通い婚という婚姻形態 が存在するが、それは原始社会の残余ではなく、特定の歴史社会を背景に、階級搾取や圧迫により形成されたものである。つまり平民百姓が土司に払う重い婚姻税を避けるため、密かに結婚生活を営むことにより生まれたものである。したがって、いわゆる「母系制或いは東方女性王国」、(中略)「母系社会の残余」や「原始社会の生きた化石」などの報道は我々にとって許しがたい行為であり、我々の民族に対する歪曲、醜悪化、侮辱、悪罵である」²³。

民族出自の報道や以上の報道事件をきっかけに、1982年6月から四川塩源県のナズ人が四ヶ月にわたる大衆の抗議運動を行った。抗議運動はナズ人民衆による会議や集合、中央政府や省政府に請願書を提出する、陳情団を組織するなどの形で行われた。運動の結果、ナズ人集団の希望する民族出自が政府部門に正式に確認され、『四川日報』などの報道機関がそれぞれ過去の誤った報道に関して陳謝し、改めて正確な報道を掲載するなどで合意している。

以上、「民族識別」の思想である発展段階論における「遅れた民族」の差別化された具体的な事例を見てきた。ナズ人集団の「母系制家族」や「通い婚」はもう一つの「発展段階論」に組み込まれ²⁴、「遅れた民族」の「遅れた婚姻家庭」のモデルとして取り上げられ、差別の対象となった。現実には、「民族識別」における「進んだ民族」と「遅れた民族」の思想の影響は甚大であった。「二重の遅れ」として捉えられたナズ人集団は結果的に二つの「民族」として「識別」され、更に民族文化が「遅れ」の証拠として大きく報道され、差別の対象となったのである。このような思想背景や国家イデオロギーの枠組の中でナズ人集団は、自民族伝統文化の存在を否定するという行動をとったことが確認された。

終わりに

以上 1950年代の「民族識別」政策の思想とその影響を、ルグフ地域ナズ人集団を例に検討してきた。

「民族識別」は、そもそも「民族間の平等」を達成するための初段階の作業として行われた。過去における漢民族の少数民族への圧迫を反省し、マルクス主義的「民族間の平等」を実現することがその目標であった。しかし、実際には「民族識別作業」がマルクス・レーニン主義として公式化された唯物史観の

発展段階論の考え方の影響を強く受けていたことが、このような「民族間の差別」を生み出す結果となったのではなかろうか。つまり、「発展段階論」に基づき、民族を「進んだ民族」と「遅れた民族」に分類することになったことが、「遅れた民族」とされた少数民族への圧迫につながったのではないかと考えられる。

しかし同時に、このような圧迫が、圧迫の対象となった民族にとって民族の特徴や、その共通文化における民族意識を強化する結果となったことも否定できない。「母系制家族」や「通い婚」を理由に、一度は差別の対象となったナズ人集団であるが、その後はむしろ「母系制家族」や「通い婚」を積極的に「民族文化」として打ち出し、両地域のナズ人集団が統一した民族としての認知を求めらるまでに発展している。今後もナズ人集団の差別の対象として生まれた「民族文化」が現在の観光開発の中でいかに主張・利用されていくか注目していきたい。

注

- 1 その代表として、宋恩常の『寧浪県永寧区納西族社会及家庭形態調査』、嚴汝嫻・劉尧漢の『永寧納西族社会及母系制調査』などが挙げられる。
- 2 金縄初美「母系社会における民族意識の変容」『APC アジア太平洋研究』11号、アジア太平洋センター、福岡、2002。
- 3 レーニン「「關於民族問題的批評意見」『列寧論民族問題』(上冊)、民族出版社、北京、1987、230頁。
- 4 周恩来「中央民族訪問団追記」『費孝通文集』、群言出版社、北京、1999、70～71頁。
- 5 黄光學 施聯朱『中国的民族識別 56個民族的来歴』、民族出版社、北京、2005、6頁。
- 6 林耀華「中国西南地区的民族識別」『雲南少数民族社会歴史調査匯編』、雲南人民出版社、昆明、1987、1頁。
- 7 費孝通「關於我国的民族識別問題」『中国社会科学』10号、中国社会科学雜誌社、北京、1980。
- 8 『塩源県誌・大事記』(初稿)(内部資料・未発行)塩源県誌事務局、1991、28頁。
- 9 2005年9月1日、四川省塩源県ルグフ鎮扎窩洛村で甲初(ナズ人)老人に対して行ったインタビューによる。
- 10 「韃子」は「韃靼」の略語であると思われる。「韃靼」は明の時代のモンゴル民族全体の呼称であり、1930年代のナズ人に関する記録にも登場するが、侮辱的な意味合いが含まれるため、1951年に中央政府の方針によって廃除された。
- 11 中国政府の公式資料によると中華人民共和国成立後、「民族識別作業」を経ずに

公認された民族としてモンゴル、回、チベット、ウイグル、ミャオ、イ、チワン、仲家、朝鮮など九つの民族の名前が挙げられる。

- 12 ラ宝臣氏に関する記述は2006年3月26日にルグフ鎮多舎村の自宅でラ氏の長男ラ品初に対して行ったインタビューによる。
- 13 洛克によると「彼（阿雲山）はいつも自らの蒙古人の後裔であることを誇りに思っていた」という。洛克『中国西南古納西王国』、雲南美術出版社、昆明、1999、250頁。同内容はまた、筆者が2007年8月20日、四川省甘洛県城の自宅で前所ラスト土司の阿啓文の叔父である阿兆魁に対するインタビューにより確認された。
- 14 霖耀華等『雲南省民族識別報告』（内部資料・未発行）雲南省民族事務委員会、1955年を参考したものである。
- 15 例えば、費孝通は「我々は一つ一つの省ごとに、また一つ一つの民族ごとにやってきたが、中国の少数民族には相互関係があり、分けても分けられないものである」と述べている。費孝通『費孝通民族研究文集』、民族出版社、北京、1988、296頁。また馬耀は「関係する省と省間の協力が不十分で、省と省にまたがって分布している民族に対しては、全体的、全面的な研究と認識が欠如してしまった」と述べている。馬耀「我国西南民族研究回顧と展望」『西南民族研究』、四川民族出版社、成都、1983、2頁。
- 16 前掲注3を参照。
- 17 費孝通「展開少数民族地区的調査研究工作」『費孝通文集』、群言出版社、北京、1999、455頁。
- 18 宋恩常『寧蒗県永寧区納西族社会及家庭形態調査』雲南人民出版社、昆明、1986、1頁。
- 19 嚴汝嫻 劉堯漢『永寧納西族社会及母系制調査』、雲南人民出版社、昆明、1986、1頁。
- 20 周華山『無父無夫的國度?』、光明日報出版社、北京、2001、73頁。
- 21 「四川省涼山彝族自治州塩源县蒙古族人民的呼声」(内部資料・未発行)1982年、及び筆者が2006年3月にルグフ鎮で行ったインタビュー調査による。
- 22 主な宛先は、『人民日報』編集部、天津人民出版社などマスコミ、四川省政府民族事務委員会など政府機関や中国社会科学院民族研究所など研究機関がある。
- 23 「四川省涼山彝族自治州塩源县蒙古族民衆的呼声」(内部資料・未発行)1982、9頁。
- 24 モーガン人類社会の発展を「野蛮」、「未開」、「文明」三つの段階に分け、その中「野蛮」と「未開」の発展段階においては人類の婚姻家庭が四つの発展段階、即ち血縁家族乱婚、プナルア家族集団婚、対偶家族非固定婚、一夫一妻制の家族を経て「文明」社会に移ったという説である。エンゲルス『家族・私有財産及び国家の起源』、内藤吉之助訳、彰考書院刊行、東京、1947、12～89頁。

参考文献

- 嚴汝嫻 劉堯漢 『永寧納西族社会及母系制調査』、雲南人民出版社、昆明、1986年
- 黃光學 施聯朱 『中国的民族識別 56個民族的来歴』、民族出版社、北京、2005年
- 周華山 『無父無夫の國度?』、光明日報出版社、北京、2001年
- ジョン・アーリ著、加太宏邦訳 『観光のまなざし 現代社会におけるレジャーと旅行』、法政大学出版局、東京、1995年
- 宋恩常 『寧浪県永寧区納西族社会及家庭形態調査』、雲南人民出版社、昆明、1986年
- 費孝通 『費孝通文集』、群言出版社、北京、1999年
- 洛克 『中国西南古納西王国』、雲南美術出版社、昆明、1999年
- 霖耀華等 『雲南省民族識別報告』(内部資料・未発行)雲南省民族事務委員会、1955年